



しげ のぶ
滋宣の

ぼう ちゅう かん

あん ちゅう めい

“忙中閑あり暗中明あり”

その 12

～ 天使の梯子～

雲の切れ間から、幾筋もの太陽の光がサッと射し込むことがあります。

とても神々しく見え、あたかも”天と地の間にかけた梯子”的に見えます。

この梯子を天使が行き交う姿を想像して、西欧ではこの光を「天使の梯子」と名付けました。

別名「ヤコブの梯子」ともいいますが、その由来は「旧約聖書」に出てくるヤコブの夢からきています。

「ヤコブはハランに向かう途中だった。日が沈んだので、そこで一夜を過ごすことにし、その場にあった石を枕にして横たわった。

するとヤコブは夢を見た。天から地に向かって、さーっと光の梯子が伸びてきて、神の召使いたちが、それを上がったり下がったりしてさざめいた。」

ヤコブの夢に出てきた天の梯子だから「ヤコブの梯子」。

八百万(やおよろず)の神の日本では、何と呼んだらいいのでしょうか?

能代市長 齊藤 滋宣



ナイスピッチング!?
400歳野球始球式で
マウンドに立ちました